

大代地区コミュニティ推進協議会
(広報部)
事務局：大代地区公民館
☎364-8442

ふれあい

〈掲載目次〉

- 素敵なチームメイト・・・・・・・・・・ 1
- 市政功労者表彰について・・・・・・・・ 2
- 楽天ジュニア高城君バンザイ・・・・ 2
- 新年を祝う会開催のお知らせ・・・・ 2
- ボウリング大会終了・・・・・・・・・・ 3

- 大代地区公民館からのお知らせ・・・・ 2
- 墓標なき墓参行(二)・・・・・・・・・・ 3
- 大代地区公民館
地域拠点化計画について(三)・・ 3
- 大代の歩み(三十三)・・・・・・・・・・ 4
- ふれあい短歌・俳句・・・・・・・・・・ 4

素敵なチームメイト

大代南区長 橋本 浩

体育部 針生 吉治

優勝！いい言葉である。今年も多賀城市民スポーツ大会グラウンドゴルフ競技が、九月二十五日、中央公園サッカー場で開催されました。競技は九時三十分開始です。競技方法は一チーム六名の団体で十六ホールを(8ホール×2ラウンド)総打数により順位を決めるものです。

私は試合前の南区の選手の表情が硬かったため、円陣を組み片手を出して氣勢を上げ硬さをほぐすことにした。

競技が進むにつれて、各自の自信に満ちた面々が行政区二十五チームとの戦いを勝利に導くものでした。

南区チームは昨年、一昨年と参加出場しましたが、残念ながら入賞できず今年こそはと選抜チームを組み競技に参加し、その結果見事一位、いや、優勝です。チームメイトの顔は輝きに満ちていました。私は心から有難うと呟いた。

全体的に今大会は技術面ではほとんど大差は無かったと思われませんが、精神的な面で強力な団結力が表されたと感じました。雨の日、風の日と練習に励んでこられた証です。胸を張って会場を後にする南区

選手の皆さんの後ろ姿がひと際大きく見えました。ご苦労様でした。

次に十一月十三日に開催された市民スポーツ大会、ボウリング競技ではいづれの試合も熱の入った接戦でしたが、惜しくも敗れて入賞できませんでした。この種の大会ではこれまで一位か二位の成績でしたので、選手みなさんはことさらに悔しさも強く感じられたと思います。誰一人として愚痴することもなく、むしろ夕刻からのご苦労会では互いを労うことと来年の復活を願う和気あいあいそのものでした。

南区の選手みなさんのこの友愛の心をしみじみと感じました。



多賀城市民スポーツ大会、大代南区チーム優勝
監督兼選手として出場し高得点で優勝、賞状と優勝杯を受ける 針生吉治殿 22.09.26

市政功労者表彰について

大代地区コミュニティ推進協議会

会長 熱海 五郎

この度、平成二十二年市政功労者表彰の篤行功労で、大代地区コミュニティ推進協議会が永年の環境整備活動の功績により表彰されました。皆様のご協力に感謝いたしまして報告させていただきます。

楽天ジュニア高城君バンザイ

広報部

去る九月吉日、高城千尋君が平成二十二年度の楽天ジュニア選手として選抜されました。

高城君は現在多賀城東小六年生で、軟式野球チーム東小イーグルスで、走攻守の揃った選手として活躍中です。おめでとうござります。

なお、楽天ジュニアでは、東北六県で少年野球を行っている者の内から十八名が選抜され、宮城県からはわずか七名で、その内の一人で将来が囑望されます。ご健闘をお祈りいたします。

消防団だより

第六分団長 伊藤 勲

師走に入り何かと忙しくなりましたが、皆様にはおかわりなくお過ごしのことと存じます。今年の秋の火災予防運動広報期間

中には初めて婦人防火クラブの後藤重子さん始め、役員六名の方々に十一月九日、十二日、十五日の三日間午後七時から八時の間防火災広報を実施いただきました。御婦人方々にとつては、忙しい時間帯にもかかわらずご協力いただき誠にありがとうございます。

これからの季節は、空気が乾燥し火災の発生要因が多くなりますので地域の皆様各位のご注意のもと、無火災を目指したいと思いますので、今後とも当分団に対するご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

新年を祝う会開催のお知らせ

大代地区コミュニティ推進協議会

会長 熱海 五郎

平成二十三年新年を祝う会を左記の通り開催致します。皆様お誘い合わせの上、ご出席下さいますようお願い申し上げます。

記

■日 時 平成二十三年一月八日(土)

午前十一時〜午後一時

■場 所 大代地区公民館

■会 費 千五百円

■参加申込 回覧文書をご覧ください

■申込締切

平成二十二年十二月二十一日(火)

ボウリング大会終了

体育部

去る十月三十一日(日)一兆パーフェクトボウルにおいてコミュニティ主催の二十三名の参加で開催しました。

男性の部

優勝 橋本 浩さん
準優勝 結城 一志さん
第三位 後藤 昌英さん

女性の部

優勝 橋本 恵美子さん
準優勝 阿部 正子さん
第三位 内ヶ崎 しか子さん

〔大代地区公民館からのお知らせ〕

子どもお楽しみ劇場

内容 人形劇等の楽しさを体験します

日時 十二月 十日(金)

午前十時から十時五十分

会場 大代地区公民館一階和室

対象 幼児と親

定員 四十名

参加費 無料

申込み 電話連絡で申し込みできます。

墓標なき墓参行(二)

大代南区 後藤 清一

前号に続き、話題の感動の一端を話したい。ある遺族の方が、この様な家族との会話を語ってくれました。

義秋(遺族)

おふくろ、ここが兄貴の眠るダベヘザ地区の第十五ラーゲル第十二支部第二墓地だよ。

亡母

ああアア、こがん寂しいところに、あいつが眠つとつと。

義夫、よしお、お母さんよ会いに来たよ。義夫、よしお！。

亡兄

ええつ、母さん、母さん、本当に母さんね。ああ、会いたかった。よく来てくれたね。

亡母

義秋に連れてきて貰ったんよ。義秋には一回でよいかからおまえのお前の所に連れていって欲しかったつとよ。

義秋

お袋を兄貴の所に連れてくるのは俺の永い課題だったのだ。兄貴が昭和二十一年の冬に死んで、政府から死亡通告があったのがその年の夏。それ以来母さんは佛前の兄貴の写真の前で来る日も来る日も鳴き通して、俺はその姿を見て育ちました。

亡兄

すまなかつたな。俺もまさかあんなに早く死ぬなんて思わんかつたし

本当に悔しい。死ぬんだつたら一度でよか母さんや、お前達の顔を見て死……ウウウ……。

亡母

母さんも悔しか熊本の鉄道学校ば卒業し満鉄に就職し、そのまま兵隊にとられて仕舞うた。そしてそのまま……。あんたはまだ二十一歳。こげんむごい事になって、誰がこげん権利があつとね。

寒かったろうな、冷たかつたらうな、腹ば減つただろうな、白米ば腹一杯喰わせてやりとうかつたよ。

亡兄

義秋

アアア、ウウウ……。今回の慰霊墓参行で一緒に皆さんからいろいろと話ば聞くことばできた。

当時義夫兄がどげん状態におかれていたか、大体の見当ばつきました。あまりにも不運で、あまりにも悲惨で、あまりにも可哀想でお袋には話したくないが、お袋も佛様になつて

いるので受け入れてくれると思うでねえお袋。

亡母

ああよかばい。何を聞いても我慢できるとい。今更何を言つても義夫は帰つてこんし誰を恨んでもしよんか。だがな義秋、これだけはあんなによい言つておくが戦争だけはいか

んとよ。絶対にいかん。解つてるな義秋。

義秋 はい、勿論わかつちよる。

今回の墓参行に参加してシベリアのこの広大な原野やうつそうとしたタイガのあちらこちらに点在する日本人の埋葬碑を見て改めて思いを深くしました。

では、ご一緒した皆さんが話してくれた事を聞いてください。義夫兄が所属していた衣兵団の軍規は“三光作戦”と呼ばれ①奪いつくす②殺しつつくす③焼きつつくすことであり敵軍に大変恐れられていた。

続く

大代地区公民館

地域拠点化計画について(三)

大代地区公民館の管理・運営移行へ向けての二回目の検討委員会が、十月二十五日に多賀城市民活動サポートセンターで開催されました。

施設内を見学後に、サポートセンター長と活発な意見交換が行われ、地域の活動拠点である施設について学びました。

第三回検討委員会は十一月二十九日に開催が予定されています。

(十一月二十六日現在)

大代の歩み(三十三)

大代南区 渡邊 巖

前号に述べた他に、村の自治的な面の資料には次のような例もある。(地名人名略) 某村の一農民は『諸上納物を納めず、小前百姓達に様々の悪事を言いふらして村内に騒ぎを起こし、所の害になつて行いの宜しくない者であつて、何とも扱いかねるのでお取り調べ願いたい』との村役人からの訴えで藩から取り調べの出頭を命じられても、見え透いた仮病をつくり、あぐらをかいたまま人を喰つた挨拶をして、藩の命令に応ぜず平然としている。

このような農民の出現は、次第に変わつてきた村の中で、村役人と対立するようになる小前百姓達の眼には、活発な村役人層の経済活動は、村という共同体から遊離した役人層の私益追求と見えたかも知れない。これは農民の生活や村社会の変化に対する藩権威の弱体化を顕し、政治体制の変革を促す社会情勢が近いことを示すものであつた。

当然の成り行きで村々は、村内での軽微な事件は藩に届けず、村内で申し合わされた議定によつて処理されることを第一義としたもので、仙台藩では一般に村の公的な機構というよりも、契約講がその機能を果たしていたようである。女性の場合、大代

村で念仏講の人々が資金を募り、念仏橋の架け換えを実現した事も既述のとおりである。

地域社会も外圧によつて経済体制の変革を迫られる歴史的課題の中で、幕藩体制から明治維新へと、決定的な社会変動の時を否応なしに迎えるが、藩主を始めとする武士階級だけでなく、様々な生活手段を持つた村人も含めて生活環境の変化はそれぞれ違つた変化をもたらしたのである。

では、江戸末期頃の藩内と多賀城地域の村々ではどのような状況だったのか。

相変わらず家臣の困窮が進み、藩の軍用金にしても借財と肝入り頼みであつた。

続く

ふれあい短歌

大代西区 藤田 遊子

(冬季特集)

鷲鷹に隠れ育ちし みそさざい 三十三歳

早くも試練の 初雪降り来

子育てを 終えし夏鳥 飛び去りて

湖面に憩ふ スワン美し

雪椿 一輪残りて 春近し

越後の人の 心躍らむ

ふれあい俳句

笠神西区 本郷 勝子

ブナ枯や 子規茂吉 哀からずや

最上川 キラキラキラと 秋茜

晩秋に 映える最上川 滔々と

小春日や 最上川ながめ にぎりめし

芭蕉翁 船下りした冬 船番所

八 幡 森 季子

ジーンズが 終の住み家と 草風

松島の 京都をしのぐ 紅葉かな

舗道飛ぶ 枯葉の音の 日々軽ろし

秋天や 巨大客船 外国へ

落日の 蒲生日濁や 草紅葉

大代西区 藤田 遊子

(当季特集)

ちゃんちゃんこ 早くも 後期高齢者

白きもの 降らぬ異郷や 大晦日

大洋を 見下ろす銅像 懐手

喜寿の父 五年日記を 買ひにけり

雪女 つひて来さふな 夜之道